

PTU

使用説明書



ES AUTO F2.7

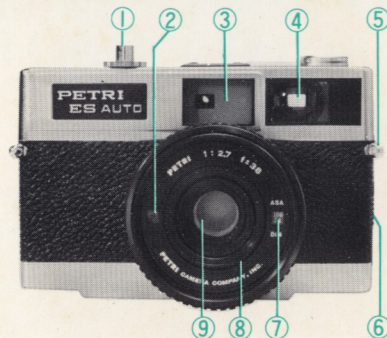


PETRI

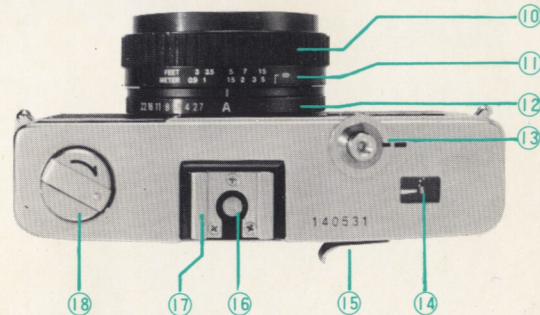
目次

| | |
|-------------------|----|
| 各部の名称 | 1 |
| 水銀電池の入れかた | 3 |
| フィルムの入れかた | 4 |
| ASA感度の合せかた | 6 |
| A(オート)とマニュアルの使いかた | 7 |
| ピント調節 | 8 |
| 構図の決めかた | 8 |
| カメラの構えかた | 9 |
| フィルムの巻戻し | 10 |
| ストロボ撮影 | 11 |
| 影になった時の撮影 | 12 |
| カメラの手入れ | 12 |
| 主な性能 | 13 |

各部の名称

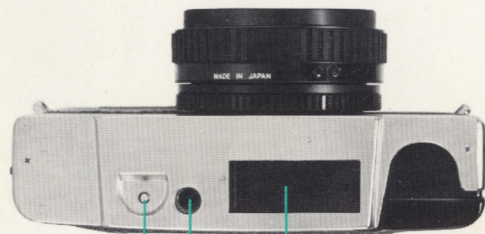


- ① シャッターボタン
- ② CdS受光窓
- ③ ファインダー明りとり窓
- ④ ファインダー窓
- ⑤ 吊り環
- ⑥ 裏蓋開閉レバー
- ⑦ ASA・DIN表示窓
- ⑧ ASA・DIN切換リング
- ⑨ ペトリ38ミリF2.7レンズ

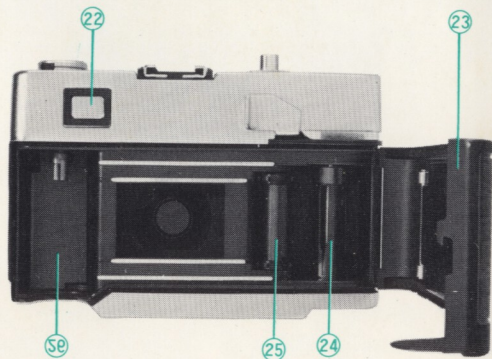


- ⑩ 距離調節リング
- ⑪ 距離目盛
- ⑫ A(オート)・マニュアル切換リング
- ⑬ シャッターボタンロック
- ⑭ フィルムカウンター
- ⑮ フィルム巻上げレバー
- ⑯ コードレスシンクローターミナル
- ⑰ アクセサリーシュー
- ⑱ フィルム巻戻しクランク

各部の名称



- ⑱ フィルム巻戻しボタン
- ⑳ 三脚孔
- ㉑ 水銀電池ボックス



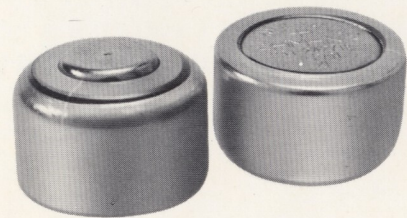
- ㉒ ファインダー接眼部
- ㉓ 裏蓋
- ㉔ フィルム巻取軸
- ㉕ スプロケット
- ㉖ フィルム室

① 水銀電池の入れかた

- 水銀電池格納室のふたを開けます。
- 付属の水銀電池を、電池ボックス内に印されているように+・-を正しく2コ入れます。この時あとで電池を取出し易いように電池ボックス内のビニールリボンをひらきリボンの上から電池を入れて下さい。
- 逆に入れると電子シャッターは作動しません。

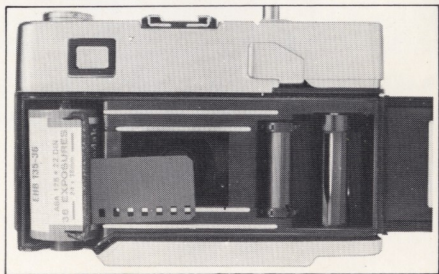
(注 意)

- 電池がなくなった場合はシャッターは押せません。
- 使用水銀電池1.4V 2コ使用 JIS-HM-N型、エバルディE640、マロリー RM640

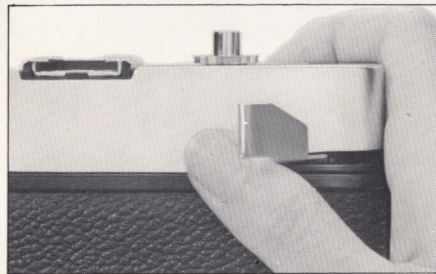
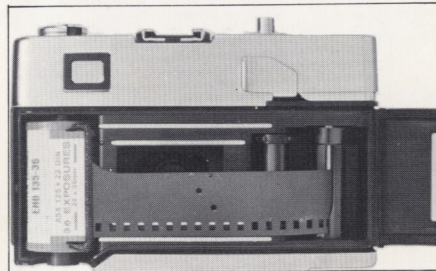


② フィルムの入れかた

- 裏蓋開閉ノブを矢印方向にスライドさせると蓋が開きフィルム枚数計が自動的にS(スタート)になります。
- パトローネをフィルム室に入れ、フィルムの先端をフィルム巻取り軸の溝(4カ所あるどの溝でも結構です)に差しこみ、そのままカメラ底部側の溝の狭い部分に引き込みます。
- パトローネを軽く押え、フィルム巻上げレバーを巻き上げ、パーフォレーション(フィルムに刻まれた穴)がスプロケットの歯車にかみ合うのを確認してから、裏蓋を閉じます。



フィルムの入れかた

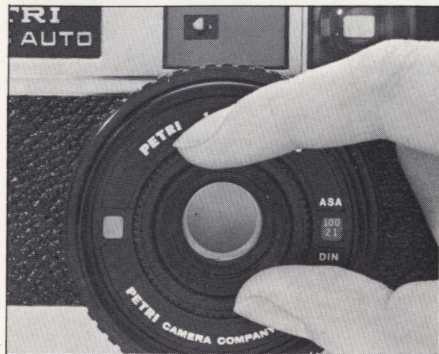


- 巻上げレバーを巻き上げ、シャッターを切る操作を、フィルム枚数計に1の数字が出るまでくり返します。このとき巻戻しクランクが、矢印と反対方向に回っていたらフィルムは正しく送られています。

※フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ないます。

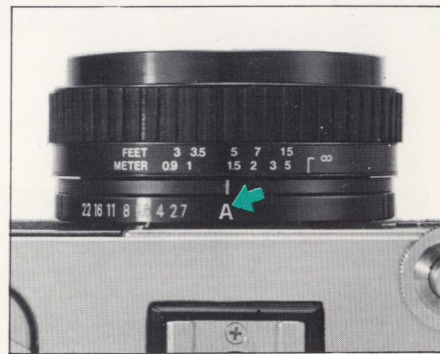
③ ASA感度の合せかた

- フィルムを装てんした後、そのフィルムのASA感度と、カメラのASA目盛を合わせておきます。
- このASA感度を間違えると、適正な露出が得られません。



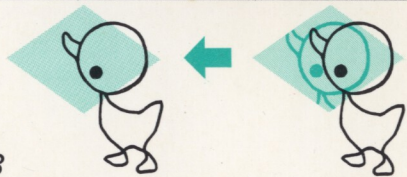
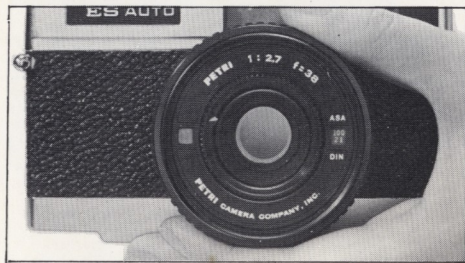
④ A(オート)とマニュアルの使いかた

- ESオートは、カメラが露出を自動的に計算します。
- オート・マニュアル切換リングをAにセットしておけば、日中の戸外や明るい室内、又は照明の明るい場所なら、シャッターを押すだけで写せます。
- A(オート)を解除すると、マニュアル絞りになります。マニュアル絞りは、ストロボ撮影の時にのみ使用します。
(⑨ストロボ撮影を参照)



⑤ピント調節

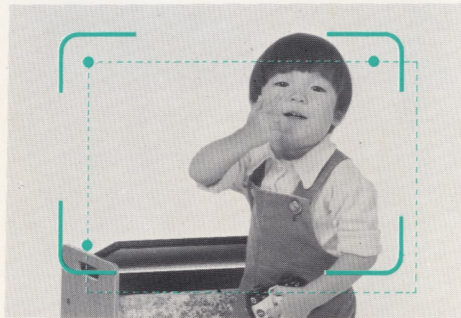
- ファインダーをのぞくと、中央部で被写体がダブって見えますから、合致するまで距離調節リングを廻してください。
- 二重像合致式の連動距離計ですからシャープな画像が得られます。



⑥構図の決めかた

- ファインダーをのぞくと、撮影枠(ブライトフレーム)があり、この枠の中に写そうと思うものをおさめます。

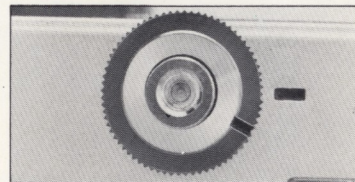
尚、ポートレート撮影など近接撮影は下図の点を結んだ中に被写体をおさめてください。



⑦カメラの構えかた

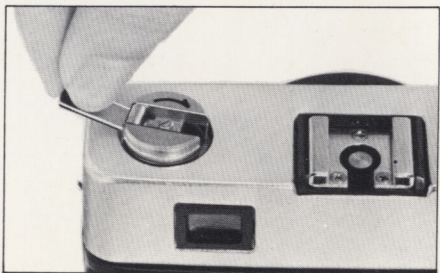
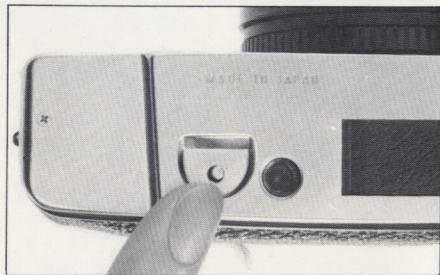
- ピンボケ写真の多くの原因は、不安定な構え方によるカメラブレにあります。正しい構え方は、撮影の基本です。
- カメラを両手で安定させ、カメラの背面を顔の一部に密着させ、指の腹で静かにシャッターを押すようにします。

※シャッターロックを時計方向に廻しますとロックされます。
撮影しない時には、ロックしておいてください。



⑧ フィルムの巻戻し

- 撮影が終了したら再びパトローネにフィルムを巻戻します。
- カメラの底部の巻戻しボタンを押しながら、カメラ上部のフィルム巻戻しクランクを起し矢印の方向に回します。
- フィルムが完全に巻き戻されると急に軽く感じられます。



⑨ ストロボ撮影

夜間に於ける撮影とか、暗い室内での撮影などは、ストロボ撮影が便利です。

- ①ストロボを使用して撮影する場合、その発光器は必ずアクセサリシューに差込んでください。(コードレスタイプのストロボのみ使用可能。)
- ②A(オート)・マニュアル切換リングのAを解除しマニュアル絞りにすると、シャッター速度は $\frac{1}{60}$ 秒の定速に固定され、ストロボ撮影に同調します。
- ③被写体にピントを合わせて、そこまでの距離を測り、その距離に見合う絞り値を発光器に表示されている絞り数値表から選んでマニュアル絞りの数字をセットして下さい。これで準備完了です。



⑩影になった時の撮影

- 窓ぎわの人物や戸外の明るいところで帽子をかぶった人物、又はかげになった被写体を撮影する場合は、まわりの強い光がカメラに入りシャッタースピードが自動的に高速になり、人物の顔などが黒くなりますので、フィルム感度を半分にセットして撮影します。すると影になった部分は明るくなります。(ASA100→ASA50)

⑪カメラの手入れ

- 野外撮影から帰ったら、カメラはやわらかい布で拭き、カメラ内部はプロアーブラシか腰の弱いハケでホコリを除去します。
レンズはプロアーでチリを払ってから、シリコンクロスなどでていねいに拭きとります。砂がついたまま拭くと、レンズにキズがついてしまいます。
- 高温と湿気は禁物です。
梅雨時などは皮ケースを外し、缶や箱の中に乾燥剤(シリカゲル)と一緒におくのがよいでしょう。

主な性能

型 式 35mm距離計連動電子カメラ
画面サイズ 24×36mm 35ミリフルサイズ
レ ン ズ ペトリF2.7 38mm3群4枚構成
コンビネーションコーティング
シャッター セイコーESFB電子シャッター
プログラムEE型
(連動範囲EV6~EV17)
感 度 目 盛 ASA25-800 (DIN15-30)
ストロボ撮影 1/20sec. 定速
電 源 水銀電池1.4V 2個使用

フラッシュ シンクロX接点、コードレス
ストロボのみ
ファインダー 逆ガレリオ型採光窓式
ブライトフレーム付
焦点合せ 二重像合致式距離計
ヘリコイド直進式
フィルム巻上 一操作によるレバー巻上げ式
リリースボタンロック付
フィルム巻戻し クランク式
寸法・重量 79.5mm×124mm×60mm
480g

標準価格 カメラ ¥24,800
ケース ¥2,000

ペトリカメラ株式会社

- | | | | | | |
|--------|------------------|---------------|---------------|--------------|------|
| 本社 | 東京都足立区梅田7-25-12 | TEL. 887-1111 | 〒123 | | |
| 東京営業所 | 東京都千代田区九段南2-4-16 | TEL. 261-9981 | 〒102 | | |
| 札幌営業所 | 札幌市中央区北4条東2-8-6 | 札幌ユニオンハイツ2階 | TEL. 221-2008 | 〒060 | |
| 仙台営業所 | 仙台市東7番丁44-1 | ち産マンション第3 | 仙台2階 | TEL. 93-0221 | 〒980 |
| 横浜営業所 | 横浜市中区長者町2-5-4 | 白井ビル3階 | TEL. 681-7145 | 〒232 | |
| 名古屋営業所 | 名古屋市中区栄3-11-9 | 塩屋ビル5階 | TEL. 251-5691 | 〒460 | |
| 大阪営業所 | 大阪市西区北堀江上通り1-50 | 東海ビル3階 | TEL. 541-5096 | 〒550 | |
| 福岡営業所 | 福岡市博多区上川端町14-13 | TEL. 291-0653 | 〒812 | | |
| 沖縄センター | 沖縄県那覇市松山1-1-11 | TEL. 68-6109 | 〒900 | | |